

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC-NEWS No.117号発行

## ■随想

◇ららら、プラスチック (8) こんなところに識別マーク? ~ リフレイン

前 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇PVC-NEWS No.117号発行

11月10日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は、PVC News No.117号を発行しました。本号の特集では「インフラと塩ビ」をテーマとして、電力インフラ/無電柱化に焦点をあてた記事としました。以下、リサイクルの現場から、インフォメーション、コラムなどの記事を紹介します。

## 特集①「電線の今と未来をつくる取り組み」(一般社団法人 日本電線工業会)

空気のような存在で私たちの生活を支えている電線。私たちの当たり前な生活を支える電力供給や通信用の電線は、生活家電やオフィス機器の電源コードから壁の中に隠れた配線、工業用ケーブルなど、様々な場面で使われています。今回はそんな「電線」の業界を支えている(社)日本電線工業会から業界団体としての取り組みを伺いました。



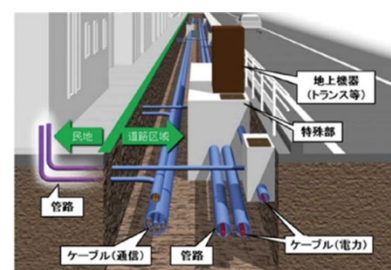
## 特集②「新たに掲げる無電柱化計画」(東京都)

自然災害のリスクに関心が高まるなか、期待を寄せられる「無電柱化」。50年以上の耐用年数を持つ塩ビ管で電線や通信用ケーブルを保護し、それらを地中に埋めることで無電柱化が実現。すると街は景観が改善され、災害に強くなります。今回はそんな無電柱化を計画的に進める東京都にお話を伺いました。



## 特集③「無電柱化が作る安心安全な街」(東京電力パワーグリッド株式会社)

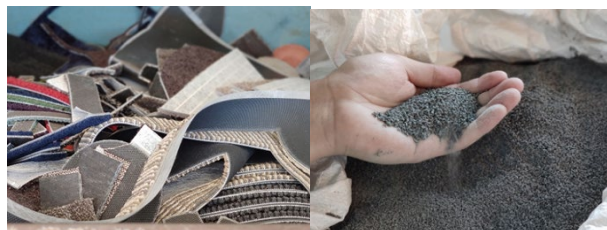
無電柱化は街の景観向上や道路交通の利便性向上、災害時の停電や二次災害の防止にもつながります。ロンド



ン、パリ、香港、シンガポールなど、世界の主要都市の無電柱化率が100%なのに対し、東京23区内は48%。まだ途上ですが、着実に無電柱化は進んでいます。今回は東京電力パワーグリッド株式会社にその取り組みについて伺いました。

### リサイクルの現場「タイルカーペット廃材の水平リサイクルを独自技術で実現」(東リ株)

東リ株式会社が進めている自社製タイルカーペットの水平リサイクルを取材しました。オフィスの床材として欠かせないタイルカーペットは、オフィスビルなどの建設やリフォームの時に大量に必要とされ、その分、撤去時は大量に廃棄されることは想像に難くありません。だからこそ、東リ株は高まる環境意識への対応と業界を牽引する企業の使命を果たすため、独自のリサイクル技術を確立しました。



### コラム「電線好きからアンバサダーへ。伝えることで育む電線業界の未来」(石山蓮華)

電線愛好家として知られる俳優の石山蓮華さんが、2022年6月に電線アンバサダーに就任。積極的に電線の現場に足を運び、取材と発信を継続する石山さん。電線の知識と電線愛もより深いものになりつつあるのではないのでしょうか。今回は活動のお話を通じて、アンバサダーが電線業界にどんな役割を果たしていくのか伺いました。

### インフォメーション①「客観的視点から生まれる機能性、社会性、デザイン性のあるプロダクト」(株式会社memori)

10本でも1本でも花をきれいに飾れる花器、「花巾着」はデザイナーの何気ない気づきと、PVCの特性が組み合わさって生まれた製品です。このシンプルなプロダクトの裏側には、どんなアイディアと思想があったのでしょうか。今回は花巾着開発のストーリーとプロダクトデザインの姿勢について伺いました。



### インフォメーション②「トイレを少しだけ便利にして、お出かけのハードルを下げる 多目的シート YU2 TS-YU2」(株式会社水上 オモイオ事業部)

近年、バリアフリー化された公共空間や設備を目にすることが多くなったのではないのでしょうか。障がいを持つ人や高齢者、乳幼児を連れた親などへの配慮が少しずつ進むなか、株式会社水上 オモイオ事業部が開発した折り畳み式の収納シート「多目的シート YU2 TS-YU2」もバリアフリー化に貢献する製品のひとつ。今回はその製品の特長と開発の背景について伺いました。



広報日よりでは「下水道展'22 東京」(8/2~5、東京ビックサイト、出展：塩化ビニル管・継手協会)と軟質塩ビシートを使った茶室 つつみの間 - 透(sui)-(10/1~2、ニュー・ブランシュ KYOTO、スペースデザインカレッジ)を紹介しました。

私たちの生活を支えているPVCが環境・社会に貢献している情報を引き続きお届けし

たいと思います。

PVC ニュースのご講読（無料）を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

[info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

## ■ 随想

### ◇ららら、プラスチック（8）こんなところに識別マーク？ ～ リフレイン 前 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

先日、合唱団の練習で初めて使用した都内の公共施設で、「おやっ？」と思うものを目にした。練習会場であるホールに多数置かれた椅子の背に、清涼飲料水等のPETボトルに表示されている「△1」の識別マーク（のようなもの）をあしらったデザインのシールが貼られている（図1）。廃PETボトルから得られた再生材を座面や背面に使用している製品であることをアピールするためのものと思われるが、このマークはPETボトル以外では見た記憶がない。PETボトルのリサイクルマーク（識別マーク）は資源有効利用促進法に基づいたものなので疑問に思い、日本容器包装リサイクル協会の知人に写真を送り確認したところ、「△1の下に“PET”の表記が無いので、PETボトルリサイクルマークではない。よって問題は無い」とのことだった。

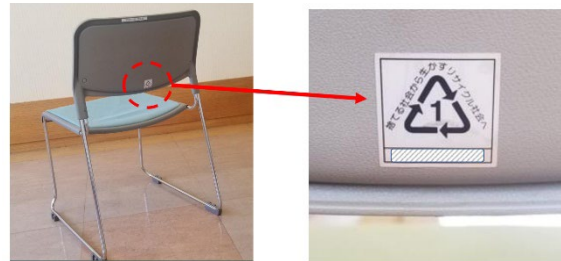


図1. 椅子に貼られていたシール  
(ハッチング部分はメーカー名)

筆者は、日頃から材質表示の無いプラマーク、すなわちPETボトル以外のプラスチック製容器包装への表示が義務付けられている識別マーク（図2）を見慣れているせいか、△1マークの下にPETの表記が無いことを意識しなかったようだ。プラスチック製容器包装への表示が義務付けられている識別マーク（プラマーク）の場合、PEやPP等の材質表示は「望ましい」とはされているが、法的な義務は無い。



図2. 識別マーク

ちなみに、この椅子が使用されている区立施設の担当者によると、「区の方針で、再生材を使用した環境配慮型の製品を購入するようにしている」とのこと。また、この椅子を扱っている事務機器メーカーのカタログを調べたところ、グリーン購入適合製品に区分されていた。納得。

プラマークへの材質表示については、日本プラスチック工業連盟時代に中小の事業者から実に多くの質問や相談を受けていた。「包装材に複合素材を使用しているが、どう表記すれば良いのか?」、「プラ製容器の金型にプラマークを刻印しているが、材質が変わると金型を作り直さなければならないのか?」等々だが、「材質表示は努力目標であり、法的義務ではない」と説明すると、皆さんが安心されていた。

識別マークの目的は、市町村における分別収集の促進に向け、消費者がごみを出す際

に「リサイクルの対象（容リプラ）か否か」を判断しやすくすることにある。だから、本来であれば材質表示は不要のはずだが、プラマークへの材質表示を「望ましい」としたのは、特定の素材を嫌う消費者団体からの働きかけが背景にあったと聞いている。

さて、本年4月1日に施行されたプラスチック資源循環促進法（プラ新法）では、市町村が製品プラスチック（容器包装以外のプラ製品）を含むプラスチックごみの再商品化計画を策定し、主務大臣の認定を受けることで、自らリサイクルを行うことができる仕組みが設けられた（第33条 再商品化計画の認定）。このたび、仙台市がこの再商品化計画について、市町村として初めて環境大臣・経済産業大臣の認定を取得した（9/30付け）。

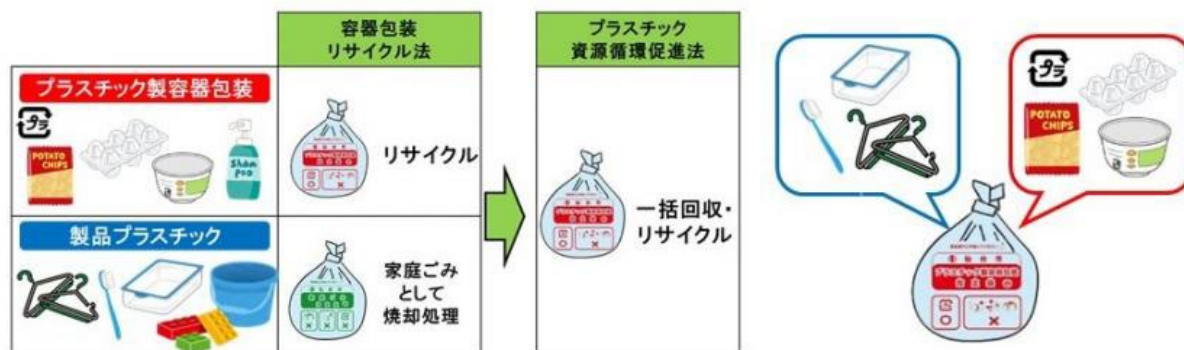


図3. 仙台市におけるプラスチック資源の一括回収  
(仙台市のHPより)

計画によると、家庭では製品プラスチック（プラスチック素材100%のものに限る）とプラスチック製容器包装をまとめて指定袋に入れて排出し、市は現行のプラスチック容器包装の日（週1回）に収集し（図3）、これを市内のリサイクル施設（民間企業）で選別・リサイクルを行うこととしている。リサイクル施設ではペレットやフラフ等を製造するとともに、これらの原料を利用して物流パレットを製造する。（開始は2023年4月1日から）

仙台市の計画のように製品プラと容リプラを混ぜて回収するのではなく、特定の製品プラだけを分別回収すれば、水平リサイクルのようなより価値の高いリサイクルが期待されるが、やはりこれに見合う量の特定製品プラを集めるのは難しいのだろう。仙台市の計画でも、製品プラの収集量は容リプラの10%程度でしかない。

プラ新法では、プラスチック資源の回収・リサイクルの拡大に向け、市町村による製品プラの再商品化に加え、事業者による製品プラの自主回収・再商品化の認定制度についても定めている（第39条）。その地域で集めやすく（量が集まる）、かつリサイクルしやすい特定の製品プラを店頭や地域のステーションで回収することで、より価値の高いリサイクルが進むことを期待している。

冒頭で合唱団のことに触れたが、筆者が参加している団を含め、ここ数年様々な合唱団が取り上げている曲がある。「リフレイン」という曲で、「等圧線」という合唱曲集の中の終曲だが、曲集として演奏されるほか、単独で演奏される機会も多く、YouTubeでもいろいろな合唱団の演奏を聴くことができる。（リフレインとは「繰り返し」の意味の音楽用語）

コロナ禍で失われたこれまでの生活も、少しずつだがようやく戻りつつあるこの頃。当たり前の日常がこれからも繰り返されますように。そして、繰り返される日常は決して同じものではなく、それぞれが貴重な一日、貴重なひととき……。そんな気持ちにさせられる1曲。

### 「リフレイン」

覚和歌子の詩による混声合唱曲集「等圧線」より

くりかえし 咲くつぼみ	くりかえし 寄せる波	くりかえし うたう鳥
くりかえし 実る枝	くりかえし 返す波	くりかえし まわる星
くりかえし つもる雪	くりかえす 雨の音	くりかえし 見つめ合い
くりかえし とける雪	くりかえす 夕映え空	くりかえし すきと言う
来る年も 来る年も	明くる日も 明くる日も	何度でも くりかえす
そのたびに はじめまして	似てるけど 似てるだけ	このときは たったいま
そのたびに なつかしい	どれだって ひとつきり	このときは いちどだけ

※薄字は作曲の際に歌詞になっていない

(覚 和歌子 詩、信長貴富 作曲)

## ■ 編集後記

日本最大規模の環境展「エコプロ 2022 <環境問題と SDGs に向き合い持続可能な社会へ>」が 12 月 7 日（水）～9 日（金）、東京ビッグサイトで開催されます。塩ビ工業・環境協会（VEC）と塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は共同出展します（ブース：東5ホール 5-034）。リアルでの出展は4年ぶりになります。

私たちのブースではコンセプトを【生活を豊かにするPVC】と定めて、身の回りのPVC製品、防災・省エネなどの社会貢献、医療・福祉分野での活用、リサイクル性などについて紹介します。

クイズラリーも用意しています。皆様のご来場をお待ちしております。

<https://messe.nikkei.co.jp/ep/>

## ■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.or.jp> ■ E-MAIL [info@vec.or.jp](mailto:info@vec.or.jp)